

(様式2)

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1572300133		
法人名	NPO法人 合歓の会		
事業所名	グループホームねむの木		
所在地	新潟県魚沼市田戸628-1		
自己評価作成日	平成21年11月20日	評価結果市町村受理日	平成22年2月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.n-kouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1572300133&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	エム・エム・シー総合コンサルティング株式会社		
所在地	新潟県上越市富岡3446番地		
訪問調査日	平成21年12月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、周囲には民家が散在し、周囲は里山と水田に囲まれた緑豊かな自然と静かな環境のなかでゆったりとした時が流れています。施設がこれまで民家であったことから地域にとけこみ、近所の人たちと交流があり、家庭的な雰囲気の中で日常生活を送っています。利用者が自立した生活をすこしでも楽しめるように、その他福祉サービスを提供する事業者と連携を図りながら総合的なサービスの提供に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに魚野川が流れ、駒ヶ岳や八海山を臨む、自然豊かな場所にある1ユニットのグループホームです。民家を改修し建物は、外も中も普通の家そのもので、地域に溶け込み、温かく家庭的な雰囲気が印象的です。
建物の印象と同様に、ご利用者が思いおもいにのんびりと過ごし、それに職員が寄り添う温かいケアが行われ、笑い声が絶えない、大家族の中にいるような印象を受けました。このようなケアは、管理者と計画作成者を中心としたしっかりとした管理に裏付けられたものとなっています。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム開設当初より「みんなと共に、明るく笑顔のたえない暮らし、利用者の立場に立って仕事を考える」を理念としている。	ホーム開設時に職員で話し合い事業所独自の理念としてつくりあげ、毎月の職員会議で確認しています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時などには挨拶をかわし、時には野菜をもらったりし、行事をする時は地域(田戸集落)全体に回覧板を回してもらっている。集落の一員として、行事の時などは見学に行ったり便りなどを配布してもらっている。	地域の運動会や文化祭の見学、事業所へ障害者施設の利用者や職員が来てくれたりするなど、良好な協力関係が作られています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りを通し、お互いが楽しめる場を提供している。知的障害者の施設の方々との交流を持っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を持ち意見交換をしている。意見交換の記録を利用者の家族に送り見てもらっている。包括支援センターの方からアドバイスももらっている。	市の担当者、包括支援センターの職員等に参加していただき、事業所からの報告に加え、参加者からの要望や意見を改善やサービスの向上の取組みに活かされています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	共生が主催する地域のケア会議に出席して話し合いをしている。包括支援センターの方に関わってもらっているケースもあり、相談、助言もいただいている。	運営推進会議への福祉課職員の参加や、2ヶ月に1回の地域ケア会議への出席などを通し、日常的にサービスの質の向上に向けた相談や意見交換が行われています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事は、全員が周知している。利用者の安全のため内鍵は施錠している。	市で開催された研修会へ参加し、伝達研修を行うことで、職員への周知がされています。また、独自のマニュアルを作成しており、身体拘束に対する職員の意思統一が図られています。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の研修会等に参加し、日頃から注意している。全職員間で認識し、防止の徹底を図っている。	市で開催された研修会へ参加し、伝達研修を行うことで、職員への周知がされています。また、日常的に詳細な記録を残し、虐待防止に対する職員の意思統一が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業は、過去は利用している方がおりましたが現在は該当なし。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には施設の状況をよく説明し、納得を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日の生活の中で利用者の不満等がある場合は職員でも地域の人でもお話できるよう外出したり、地域の人たちとの交流を持ち、外部へ表現できる機会を作っている。その対応は全職員で認識し改善、運営に反映させている	料金の支払で毎月定期的に来て下さるご家族もおり、日常にご家族が意見や要望を言いやすい雰囲気作りを行い、直接言ってもらえる関係が作られています。	意見箱の設置がされておらずに、より多くの意見を吸い上げるためにも設置の検討を期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者、管理者とは常に相談や意見交換を行っている。月1回の相談会では職員の意見を聞き反映させるべく努力している。	月に1度職員会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会が設けられています。加えて管理者が日常的に職員から話を聞くよう配慮されています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当法人の常勤職員は週32時間勤務(週休3日制)としており、いくつかの勤務を組み合わせながら業務に取り組んでいます。このため、勤務体制の調整は柔軟に対応できています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務研修には職員全員に連絡し、出席できる場合は参加させています。必要な内容については研修資料を共有し参加者から説明させるなどして職員育成に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は年5回、グループホームだけの交流会に参加している。今年度初めて同市内のグループホーム同志で交流会(お楽しみ会)を持ち参加しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の意見を納得いくまで聞くことにより、またその機会を作っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用までの初期段階は家族の方はかなり不安のため、相談の時間や場所に気を配っている。家族が考えていることを出せるように努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の対応については特に「その人にあったサービス」となるよう本人、家族の必要とする支援を見極めるよう努め、施設の見学をして納得した上で入所にいたっている。見学時必要に応じ居間でみんなとお話をしたりして馴染めるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日職員とともに一緒にいる時間を作り、同等の話の輪の中に入っているようにしている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に連絡を密にし信頼関係ができている。一緒に本人を支えている。	ご家族との連絡を密にし、ご家族の相談にも対応することで、信頼関係を構築し、ご家族と事業所それぞれの役割を分担し、共にご利用者を支える関係が築かれています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者との関係ある方々については、そのつながりを大切にすべく積極的に支援している。	退職者や新入職員に関しては、広報誌にてご家族に紹介されています。また、日常的に情報共有を行い、異動や離職の際のご利用者へのダメージを防ぐ配慮が行われています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブルを最小限にするよう日頃からコミュニケーション作りに努め、お互いに支えあえるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の次の施設の様子を伺ったりし、できる限りお付き合いを続けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向はもちろんのこと、家族とも話し合い本人の暮らし方を検討している。	センター方式のアセスメント様式を活用し、利用開始時のアセスメントに加え、日々のケアにおけるコミュニケーションや行動から得た情報を記録し、情報の蓄積と職員間で共有が行われています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、ケアマネ、包括、サービス利用先等の情報収集に努め、本人なりの支援に努力している。	思いや意向の把握同様、センター方式のアセスメント様式を活用し、利用開始時のアセスメントに加え、日々のケアにおけるコミュニケーションや行動から得た情報を記録し、情報の蓄積と職員間で共有が行われています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人にあったペースで過ごし方を把握し一日一日をすごしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との相談、関係者の情報などを話し合いその人にあった介護計画を立てている。3ヶ月ごとにモニタリングし、記録している。	ご利用者・ご家族の要望を踏まえたケアプランを作成し、3ヶ月ごとに担当者がモニタリングを実施し、プランの修正・決定が行われています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回の相談会で情報交換をしており、状態悪化や変化に伴ってさらに相談会をしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃の生活介護はもとより、通院、受診時の移動の際の付添等は利用者の負担なく柔軟に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開設時より、施設にボランティア1名の協力をいただいております。唄・踊りなど各種団体のボランティアの協力も年数回ある。また、利用者調査の協力で警察との協調、避難訓練の指導や救急法の受講など消防署の協力もある		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医と看護師が連絡調整をとりながら適切な医療受診の支援をしている。	ご利用者・ご家族の希望するかかりつけ医での受診が行われています。受診の際は職員が同行し、医療機関への情報提供も直接行われています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	計画担当者が常勤看護師であり、医療機関とも相談しながら日頃の健康管理、医療活用の支援をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、家族との連絡調整、情報交換を図っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の入居時に認知症が進行・悪化した時の対応、歩行状況の悪化等について家族に納得、理解の上入居に至っている。初段階から話し合いをし、職員全員が内容を共有している。	中間施設であるというターミナルケアに対する事業所としての方針と対応を明確にし、契約時に説明し、納得してした上で利用が開始されています。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が実施する救急法に職員はそれぞれ初級または上級の講習会を受講している。	採用時には消防署主催の救命救急講習を受講し、急変や事故発生に対する備えが行われています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員、地域の人とで作る緊急連絡網があり、防災訓練の実施している。または集落の防災訓練にも参加している。	消防署の指導のもとに行なう避難訓練のほかに、地域の防災訓練にも参加しており、地域との防災に関する連携も図られています。	非常用の食品、水の備蓄が準備してありませんでした。災害時を想定した準備をされることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保には職員全員が気を配るよう指示している。利用者の写真掲示も希望していない人の分は貼らないようにし、広報誌の記事や写真の掲載にも個人情報の取り扱いに気を配っている。	新入職員研修において基本的な指導を行うとともに、写真の掲載など、個々の個人情報の取扱いや羞恥心に配慮した対応など、周知徹底が図られています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人それぞれの性格、認知症の状況により対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のいろいろな場面において希望、意向を伺い支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	エプロンをかけている人、帽子を着用したりそれぞれ自分の気に入った服装等を支援、整髪料や乳液を使っている方もいる。また理容師さんに施設に来てもらい希望者に便宜を図っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくりをする人が3人おり、職員と一緒に作り、食事と一緒にとっている。それぞれの好みを把握し摂取量などを見て食べやすいように料理している。また片付け作業も一緒に行っている。	畑から収穫したものや差し入れなどの旬の食材を取り入れ、簡単な調理や準備、食事、後片付けをご利用者と職員が共に行い、大家族のような食卓で支援が行われています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士から立ててもらっている。一人一人の状態に合わせた支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きが習慣化している。仕上げ磨き介助の対象者が2名おり対応しています。週1回コップをハイター消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿漏れがあり紙パンツ使用の方が1名、食事前後にトイレ声かけ、就寝前にトイレ声かけをしている。	必要に応じて排泄チェックを行い、排泄パターンや仕草を職員間で共有し、トイレ誘導が行われています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬による調整、コーヒー希望の方には飲んでいただいています。個々の状況を把握し支援に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一番入浴を好む人、毎日入りたい人、1人で入りたい人、一日おきの人それぞれであり、入浴が楽しめるよう支援している。	一人ひとりの体調や希望に応じて柔軟な対応がとられています。また、入浴拒否に対しては、無理強いをせず、タイミングや声かけの方法を職員で連携して対応がとられています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝寝、昼寝する人しない人、自分の部屋で休む人、居間で過ごす人それぞれであり、その人にあった支援に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬についてはお薬情報をよく認識している。特に受診後お薬が変わった場合は申し送りをきちんとしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	部屋でテレビをみる人、自分の本を読む人、三味線をひく人、仏様に水を上げる人等それぞれ個々に支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年数回公園に行ったり、外の施設に風呂入りに行ったりして楽しんでいる。天気の良い日は散歩が日課となっており、歩ける距離や速度が人それぞれのため、注意を払って支援している。	少人数での日常的な散歩や買い物に加え、毎月の企画にて公園や温泉などの外出支援が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で持っていたい方については自己管理していただいています。家族と相談し、足りない物、ほしい物を買っている。買物には同行している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使ってもらっている。手紙が届いた時には返事に助言させていただいております。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をかざったりしている。入浴には希望により入浴剤をいれるなど工夫している。居間の敷物は季節ごとに色を選んでいる。	民家を改修してあるため、非常に家庭的で生活感が溢れる居心地のよい空間になっています。エレベーターも設置されており、足の不自由なご利用者への対応もされています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	店間での語らいはいつも座る位置が決まっていたり気の合う人同士が話している。個室で1人で居ることが好きな人、また、個室を訪問して一緒に語らう人、それぞれの楽しそうな会話が守れるよう工夫し、イスが2つ置いてある		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自分の好きな物を持ち込み生活できる方針で、それぞれが写真、思い出の品、カレンダー、興味ある道具や物入やケースを部屋の中にレイアウトしている。危険な物でない限り持ち込んでいただき心地よく過ごせるよう工夫している	使い慣れた物を持ち込んでもらうよう働きかけ、写真や思い出の品が置かれ、居心地よく過ごせる工夫が行われています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要箇所に手すりを取り付け段差解消、すべり止めマットを敷き安全対策に工夫している。		